資料　調査拒否の実情

西　村　善　博

本調査（「統計環境に関する実態調査」）では，調査員は，調査拒否の実情を調査票または手集計カードに詳しく記述するよう指示されていた。われわれは，調査員から，調査票回収時に，上記の記述についてさらに詳しく聴取した。以下では，こうして得られた拒否の実例を，(a)町田，(b)福岡，(c)八幡，(d)熊本（矢部），(e)鹿児島（知覧），(f)長崎（富江）に分けて掲載している。また各地点の特記事項についても簡単に説明しておいた。

さて，それぞれの実例をみるにあたっては，次のことに注意されたい。

(イ)実例のはじめに，サンプルの性別，年令，職業，家屋形態，面接の日時を並記しているが，このうち，性別と年令は，サンプリングの際の有権者名簿によるものである。また年令は，それにもとずいて１９７８年１２月末現在とした。

職業と家屋形態については，サンプル本人またはその家族・近所の人からの調査員による聞き取りおよび観察の結果である。

面接の日時は，調査員がサンプルまたは家族等に面接した時であり，原則として，文頭に掲げているが，実例中に記した方が適切な場合は，このかぎりでない。

(ロ)実例は，調査員の記述をほとんどそのまま採用し，その内容は，サンプルまたは家族等の態度，それに対する調査員の反応等からなっている。

(ハ) 調査員には，調査不能の場合，少なくとも職業と家屋形態だけは，何らかの形で，調査するよう指示しておいた。また一度拒否されても，もう一度訪問するように指示しておいた。なお各地点の調査員は，ほとんど，本調査における研究分担者のゼミ生および統計学受講生である。

(ニ)町田，福岡にかぎり，拒否の内容別一覧表を掲げている。この場合，たとえば，「忙しい」からと言って拒否された場合でも，本当に「忙しい」からなのか，ほかに別の理由があるのか明確でない。したがって，内容別の分類は，形式的にならざるを得なかった。

(a)　「町田」における拒否の実情

「町田」の拒否数は，28サンプルであった。実例掲載にあたっては，そのうち１５サンプルをサンプル番号順に掲げた。ここは，サンプルの対象がすべて山崎団地（アパート形式）なので，家屋形態は省略した。また職業不明が多いのは，拒否の程度が他地点に比べ強かったことを物語るのであろう。このことは，実例中の調査員の反応の激しさの中にもあらわれている。

なお表1は，「町田」における拒否15サンプルについて，分類したものである。

＊山崎団地については，第一報告書『統計環境の実態』（5ページ），町田市山崎団地の地点概況を参照されたい。ここでは，山崎団地の間取りと家賃のみをあげておく。

間取り	家賃（調査時）
3K { 45.81㎡	23,400～24,500円
3K { 48.20㎡	26,000～27,100円
3DK 56.65㎡	29,100～30,200円

表1　「町田」の拒否分類表

拒否の内容＼拒否者	サンプル（本人）	サンプル（本人）以外
特定の理由をあげて拒否	⑫ ⑬ ⑮	② ③ ⑦
感情的・頭ごなし的拒否	⑭	①
即座に拒否	⑥	⑧
「お断わり」の一点張り	⑩	
全くききいれない	⑪	④
その他	⑤	⑨

（注）数字は，拒否の事例番号

〔事例・1〕　女　48才　　主婦　日曜の午後

サンプルは不在で，サンプルの夫が出てきて，「調査によって，自分の家庭生活のペースを崩されたくない」と主張。わずか20分位の時間でなぜ生活ペースが崩れるのかと質問したところ，「それに答える義務は私にはない。」「答えさせる権利がきみにはあるのか？」と，最初からけんか腰のものの言い方であった。

〔事例・2〕　男　45才　　事務系の勤め人　金曜の午後

サンプルの妻から，「主人（サンプル）に調査が来ても断われ。変なことを言うな。と言われているから」と言って拒否され，その後，行っても（土曜・日曜の午後），サンプルに会えなかった。サンプルの妻の態度は，ていねいで調査員自身に対して，やや同情的であり，拒否理由を聞いてみると，自分の家ばかり何回も当って迷惑しているとか，過去に販売等が目的のアンケートでいやな思いをしたことがあるとか言っていたので，うなずけないこともないが，一度くらいサンプル（本人）に会ってもらいたかった。もっとサンプルに不安とか疑いを持たせないような調査の方法はないだろうか？　たとえば，往復はがき等による

事前承諾など。

〔事例・3〕　男　45才　　職業不明

三度（金曜の夕食頃，日曜の午後，水曜の夜）の訪問の際，サンプルは不在であったため，サンプルの妻と思われる人が応待。本人は，土・日曜とも不在であり，夜も遅い等の理由をあげ，調査の説明をしても，「帰ってくれ」と言って受け入れてくれなかった。非常に嫌そうであった。こちらも非常に不愉快だった。

〔事例・4〕　男　37才　　職業不明 土曜の午前

サンプルは不在で，サンプルの母親らしい人に頼んでも，なんとかかんとか言って，全くききいれられずに断わられた。

〔事例・5〕　女　38才　　主　婦

二度目（水曜の夜）の訪問の際，非常に不愉快な応待をされたが，しぶしぶ調査に同意してもらった。しかし，その時は調査せず，調査の日時を土曜に指定してもらった。そこで，予定通り（土曜の午前）に訪問したところ，居留守をつかわれ拒否された。家の中からのぞいているのがわかった。何という態度だろう。こんな人間が増えたら世も末だ。

〔事例・6〕　女　37才　職業不明　金曜の午後

ドアを開けずに「アンケート」と聞いただけで拒否された。典型的な団地族である。できることなら2・3発ぶんなぐってやりたかった。

〔事例・7〕　　男　36才　　職業不明　金曜の夜

サンプルの妻から，本人は朝6時半頃出勤，夜10時頃帰宅。また日曜日も出社予定があり留置きも疲れているからできないと拒否された。山崎団地からの通勤には，片道2時間ぐらいが普通。ゆえに日曜も出勤のサンプルに会うことは無理。妻の「夫は疲れて帰ってくるので留置きはだめです。」という言葉もうなずける。

〔事例・8〕　男　32才　　職業不明　金曜の夕食頃

サンプルは不在。サンプルの妻と応待。サンプルの妻は一応ドアは開ける。しかしアンケート用紙の「お願い」の紙を見せ説明すると「うちはけっこうです」と言ってドアを閉める。まったく気にくわん。

〔事例・9〕　男　50才　　職業不明　金曜の午後

昼に行ったのはまずかった。夜直接本人に会いに行くべきだった。しかし訪問者に対する団地妻の対応は常識では考えられない。こんな連中が多いから日本の国はよくならないのだ。

〔事例・10〕　女　23才　　職業不明　金曜の夕食頃

「『～』という者ですが『～』のアンケートをお願いします。」サンプル「今は忙しいからだめです。」　調査員「では夜は暇でしょうか？」　サンプル「夜もだめです。」調査員

「明日はどうでしょうか？」サンプル「明日もだめです。」調査員「あさってはどうですか？」サンプル「だめです。」調査員「じゃあ，ずっとだめですか？」サンプル「そうです。」"ドアぐらい開けろ"

〔事例・１１〕　女　３６才　　職業不明　金曜の午後

説明しても聞いてくれないのに，なぜ拒否するのかわからない。文部省のアンケートだと言っても全くききめがない。

〔事例・１２〕　女　４４才　　職業不明　土曜の夜

サンプルは忙しくて調査協力ができないというが，本当のことはよくわからない。昼は仕事で不在で，夜は忙しいから，いつ来てもだめだと言われた。サンプルは，排他的で恐れているような感じがした。忙しいという口実で拒否されたように思える。

〔事例・１３〕　男　４１才　　火曜の夜

サンプルから，「現在会社の仕事が忙しく，帰宅時間も遅く，仕事を家に持ってくるので協力する時間がない。」と言って断わられた。

〔事例・１４〕　女　４１才　　職業不明　祭日の午後

すごい剣幕，「お願い」の用紙を渡す前に戸を閉められた。こちらが，いくらていねいに話してもだめだ。有無を言わさず，「帰れ」である。断わるなら断わるで，もう少し静かに話してもわかるのに。なぜあんなに怒るのかわからない。こういう調査拒否に出会うとうんざりする。こんなに怒られたのは，はじめてである。

〔事例・１５〕　女　３８才　　主　婦

拒否の理由は，学生には答えられないとのこと。三度（祭日，土曜の午後，日曜の午後）訪問したがだめである。結局一度疑われたらだめであると思う。風邪をひいていて，１５分もの質問には，とても答えられないと言っていた。しかしそれは本音ではないと思う。一般に団地は，警戒心が強いと思われ，うさんくさげにみていた。

(b)　「福岡」における拒否の実情

「福岡」の拒否数は２６サンプルであった。ここでは，調査不能理由「その他」のなかから，「拒否」に類似したものも含め２８サンプルを対象とした。表２はそれを行政区別に掲げたものである。また本調査と同時に調査員に対して，調査員調査を実施した。そのなかで福岡の各調査地点が，どんな地域であるかという質問を設けた。それによれば，地域類型別の拒否の発生数は表３のとおりである。また以下の実例でもわかるように，「福岡」における拒否で，内容からみた拒否のタイプが，この調査に関するかぎり，ほぼ出つくしているように考えられる。表４は，内容別にみた「福岡」の拒否である。

なお，以下の実例は，行政区別・サンプル番号順となっている。

表２　「福岡」の行政区別拒否数

区	拒否数	調査不能数	計画サンプル数
東	5	13	90
博多	7	21	76
中央	1	19	60
南	5	25	99
西	10	49	176
計	28	127	501

表３　「福岡」の地域類型別拒否数

地域類型	拒否数	調査地点数
1 農林業地区	0	0
2 農漁業地区	0	1
3 普通の住宅地	0	0
4 団地	2	6
5 新しく開けた住宅地	7	10
6 町工場・住宅地	2	2
7 商店・住宅地	2	7
8 商店街・繁華街・ビル街	1	1
9 普通の住宅地	13	18
10 その他	1	4
計	28	49

（注）地域類型は，調査員の観察によるもの。

表４　「福岡」の拒否分類表

拒否の内訳＼拒否者	サンプル（本人）	サンプル（本人）以外	拒否数
特定の理由をあげて拒否	③ ⑱ ⑳ ㉕	⑪ ⑮	6
拒否の「権利」を主張	⑤ ㉓	② ⑫	4
感情的・頭ごなし的拒否	⑧ ⑬	④ ⑯	4
即座に拒否	⑨ ⑰ ㉖		3
「お断わり」の一点張り	⑲ ㉔		2
全く聞きいれない	㉑ ㉒		2
その他		㉗	1
途中から拒否	⑭ ㉘	① ⑦	4
留置後拒否扱い	⑩	⑥	2

（注）数字は，拒否の事例番号。㉕～㉘は掲載していない。

福岡市東区

〔事例・１〕　女　２１才　　職業不明　　持ち家　　日曜の夕食頃

サンプル本人よりも親が拒否して，調査ができなかった。サンプルの父親は，少し酒気をおびていて，口調が激しかった。問２２まで調査ができたが，問２３の問を読みはじめたこ

ろから父親がでてきて追いかえされた。本人は協力的だったのに，親の理解が得られなくて残念だった。

〔事例・2〕　男　32才　　作業系の勤め人　　市営アパート　　金曜の午前

サンプルの妻に聞く。「この統計調査に対して，答える答えないの自由があるのだから拒否してもいいのではないか？」ということでした。ドアを10cmぐらいしか開けないで，疑っているような，恐れているような感じがした。笑顔で話しかけても，暗い表情が印象に残っている。

〔事例・3〕　女　53才　　事務系の勤め人　　持ち家

一回目（金曜の午後）に行った時は，客が来ているとのことで拒否され，二回目（日曜の午後）に行った時は，病人の看病に行かねばならないとのことで拒否された。そこで暇な時を聞いたら看病などで忙しくて家にはいないとのこと。口ぶりはやさしかったが全く調査に協力するような様子ではなく，忙しいからばかりを口にして，すぐ奥の部屋に入っていった。サンプルは口ではいろいろ拒否理由を言っていたが，めんどうくさがっているのではないかと思われた。

〔事例・4〕　男　29才　　大学院生　　持ち家

本人は，毎日夜11時すぎしか帰宅しないとのことで，四回行った（月曜の夜，金曜・日曜・木曜の午後）が会えなかった。それで，本人の父親に留置きを頼んだところ「自分の息子はそういう調査はいやがるし，自分がそれを預るわけにはいかん。」と強く拒否された。本人とは，会えなかったが，本人の父親は，非常に厳しい口調で，留置きを頼んでも，全く受けとろうともしなかった。以前変な調査を受けたと言っていたので，調査というものにあまり良い感じを持っていないように思われた。

〔事例・5〕　男　43才　　大工　　借家　　月曜の夜

「そのように，一方的に来たものに対しては，答えたくないし，また答える理由もない」近所の人の話しによれば，最近引っ越してきた大工さんで，毎日忙しそうで，不断いるとはかぎらないそうだ。

福岡市博多区

〔事例・6〕　男　53才　　ペンキ塗装（自営）　　持ち家

一回目（土曜の夕食頃）の時は，サンプルの娘らしい人がでてきて，横柄な口ぶりでなぜここがわかったのかと言った。九大でこういう調査をやっているが，お宅がサンプルとして選ばれたと話したら，父は今忙しいとのことで，面接調査はできないと言う。自分が代って答えようかと言ったので，それじゃ困ると返事すると，置いとけば書いとくが，そうでなければ帰れというように向うにでられたので，拒否されるよりもましだと思い留置きにした。

次に二回目（月曜の夕食頃）に行った時は，「父は忙しくて書いていない。」「いつ帰るかわからない。」という返事でした。その後，二回ほど（火曜・金曜の午後）電話で記入したかどうか尋ねても，いつも「父は忙しくて書いていない」という返事でした。それで結局，最初の訪問日から８日後（日曜の午後）調査票を回収しに行った。その時も忙しいからという返事であったが，職業と家屋のことだけで結構ですからと言うと，サッと答えて調査票を返してくれた。８日待っても回答してくれなかったので，拒否扱いにした。どうも，向うに適当にあしらわれたような気がする。一見愛想がよかったが，全然とりあわれなかった。博多区に昼間も陽の当たらない穴倉のような所に住んでいる人がいるとは，思いもよらなかった。

〔事例・７〕　女　３８才　　主　婦　　民間の借家

一回目（祭日の午後）の時，サンプルの夫は，はじめから非協力的だったので，家の外で質問をしていたところ，その途中で，「何様と思っているのか，水をぶっかけるぞ」と言われ，質問をやめた。サンプルの夫は，酔っているわけでもなかった。二回目（木曜の午後）に行った時は，サンプルから「子供が寝たから」と断わられた。三回目（火曜の午後）に行った時は，全員留守でした。（問２１まで記入あり）

〔事例・８〕　女　６１才　　水商売　　民間のアパート

この人のおかげで調査がいやになった。最初（日曜の午後）の訪問では，「子どもが泣いているから今はだめ。」二度目は，祭日の午前１１時頃で，「どうして，こんな時間に来るの？　他の人がいるでしょう。あなたが来るのは，不愉快だからもう来ないで。」と言ってドアをバタン。ショックだった。全くとりつくしまもない。職業は水商売と口走った。

〔事例・９〕　女　３１才　　作業系の勤め人　　借家　　木曜の夜

玄関さえあけてくれなかった。迷惑そうな声で，そっけなく「結構です。」と言った。（拒否理由を調査票問１３から選べば）「個人の秘密を知られたくないから。」「めんどうくさいから。」と思われる。玄関さえも，あけずに断わられたのでいい気持ちはしない。冷たいなあと感じた。

〔事例・１０〕　女　３６才　　主　婦　　民間のアパート

最初（日曜の午後）訪問した時，「今は忙しいから，預っておきます。」と言ったので，留置きにして，三日たって回収に行ったら，「忙しくて書いていない。」というので，それから１０日ほどたってから（月曜の夜）行ったら，また「忙しくて書いていない。」というので拒否とみなして回収した。職業だけは調査票の問２８から選んでもらった。正直言って調査員を馬鹿にしているようで頭にきた。不在の時もあったので数回訪問した結果がこれだから，割の合わないアルバイトだと感じた。

福岡市中央区

〔事例・１１〕　男　３９才　　うどん屋勤務　　民間のアパート　　月曜の夜訪問

サンプルの妻から，本人は飲食店（うどん屋）で働いており，帰宅が夜遅くなり，大変疲れているのでと断わられた。留置きにしたいと言ったが，書けないと言われた。

福岡市南区

〔事例・１２〕　女　４０才　　主　婦　　民間の借家

一回目（火曜の夕食頃）に訪問した時，サンプルと会って話しをしていたところ，サンプルの夫が帰宅して，サンプルに選ばれた理由を言ったら，「勝手にそちらが選んだのには答える必要はない。」と言って断わられた。二回目（水曜の午後）の時は，夫はいなかったがサンプルは消極的で答えてくれなかった。

〔事例・１３〕　男　４３才　　事務系の勤め人　　借家

最初（火曜の午後）に行った時，サンプルの妻から「本人はいない。次の夜来てくれ。」と言われた。次の夜，サンプル本人に会う。玄関で，サンプル「他の人でもいいじゃないか？」調査員「理論がくずれる。」サンプル「関係ない！　押しつけ！」この間約５分。三回目に行った時（金曜の昼食頃）は，サンプルが前と同じことを言って断わった。

〔事例・１４〕　女　６０才　　主　婦　　持ち家　　金曜の夕食頃

質問をはじめるまでは，半信半疑ながらもつきあってくれたが，質問の内容に腹をたてて調査票第１ページの途中（問３まで回答）で，「もうそんな質問には，答えたくない。」と言って拒否された。質問の内容が嫌味みたいで，質問と同時に急に冷たくなった。何かこわがっているようで，いろいろ言ってねばったが，聞き入れてもらえず，腹がたつのと同時に情なくなった。学生アルバイトということも気にくわないようだった。その後道路で二度ほど会ったが，ていねいに断わられた。

〔事例・１５〕　女　３９才　　職業不明　　持ち家

一回目（火曜の午後），二回目（金曜の午後）とも留守。三回目（日曜の夕食頃）にサンプルの夫に会い，調査主旨の説明をしたが，「忌中だからそういうことは，したくない。」とけんもほろろに断わられた。この間２～３分。結局サンプルには会わなかった。

福岡市西区

〔事例・１６〕　女　２４才　　事務系の勤め人　　持ち家

第一回訪問の際（土曜の午後）は，サンプルは不在で，サンプルの母親の質問に対し，調査の主旨を説明。第二回目（日曜の午前）の際，サンプルの父親から「九大は嫌いだから，九大の人には協力しないし，協力させない。」と言われた。それでも，あなたではなく，娘さんに協力をお願いしているのだと説明しても「そんなものに答える義務があるのか」と言

われ，もう一度調査の主旨を説明し，また伺うから協力をお願いしますと告げたところ，父親は「また来たら娘は，俺が俺の車で外出させる。」と個人タクシーの車であるらしいものの掃除を終始やめないで，腹ただしげに言った。それで結局調査不能になった。この間５～６分。サンプル自身が拒否したわけではないのでサンプルの気持ちはわからないが，父親は相当九州大学を嫌っているようだ。

〔事例・１７〕　女　３４才　　主　婦　　家屋形態は不明

五回訪問した。そのうち昼間はいつも留守（日曜の午後二度と月曜の昼食頃一度訪問）であり，三回目（金曜）の夜に行った時は，電気はついていたが，ブザー押せども反応なし。ブザーはこわれていて，まるで借金とりを恐れているようだ。それから五回目（火曜）に，夜行った時，大声で来意を告げるとドアも開けずに「忙しい」の一言。詳しいことを聞こうともしなかった。

〔事例・１８〕　女　２３才　　理容師　　持ち家

４回訪問。最初（日曜の午後）の時は，サンプルから「統計学などは自分に関係ない。床屋だから忙しい。休日はゆっくり休みたいし，普通の日は迷惑である。」ということで断わられた。二回目（金曜の夜）の時は，別の店員から「ちょっと待って下さい。お客さんがいるから」と断わられ，三回目（日曜の午前），四回目（火曜の夕食頃）は，サンプルから忙しいということで断わられた。

〔事例・１９〕　女　４０才　　主　婦　　持ち家

一日目，まず（日曜の）昼頃訪問。サンプル「来客があり，今は困ります。」と言い，同日の午後行くと，「断わります。何回来ても同じです。」翌日（月曜）の午後，また同じように言われ断わられた。めんどうくさそうで，帰ってくれという気持ちがありありでした。

〔事例・２０〕　女　４４才　　主　婦　　持ち家

一日目（日曜の）午前中，サンプルは不在で夫がでる。出なおして，同日の昼頃，サンプルに会う。本人は，玄関のすぐわきの炊事場にいたが，料理中なので困るということだった。それで，また出なおして，同日の８時すぎにまた行くと，本人から夜遅いからと断わられた。それから翌日（月曜）の午後行くと，本人はめんどうくさそうで，家事にかこつけて断わった。

〔事例・２１〕　男　３７才　　作業系の勤め人　　市営アパート

一回目（水曜の午後）に行った時は，サンプルがいたので，「僕は九州大学の学生で，九大統計学研究室の世論調査……。」ときりだしたところ，"九州大学"のところで，「ああ，もうよかよか，わからんわからん。」と言ってドアを閉められた。二回目（祭日の午後）に行った時は，小学生くらいの息子さんが出てきただけで，その時職業を聞いた。

〔事例・２２〕　女　４０才　　事務系の勤め人　　４軒長屋　　日曜の午前

最初の挨拶の時は，耳をかたむけていたが，サンプルは，「九大統計学研究室の……」や「学問的……」などということばを聞いて，難しいと思ったのか，「私には，わかりませんので遠慮させていただきます。」の一点張りだった。そして簡単であると説明しようとすると，玄関に調査員を残したまま，自分だけなかに引つ込んでしまった。呼んでも出てこない。結局，質問の内容は説明せず。

〔事例・２３〕　男　５８才　　無　職　　持ち家　　日曜の夕食頃

「始めの挨拶の要領」に従って，この調査の説明をした。サンプルに「お願い」の紙を渡したところ，サンプルはめがねを取り出して読んでいたが，「クジ引きで選んだと言われても，こちらは選ばれる対象となる義務はない。」とか「学問的研究といっても，どうするのかわからない。」などと述べた。また「お願い」の文章中，「おことわりいただくと調査上の理論がくずれてしまいます。」というところが，サンプルに不快感を与えたようだ。「強制的な感じ」がするそうである。そして，「この調査には協力しかねます」と意外ときっぱり言った。

〔事例・２４〕　女　５３才　　主　婦　　持ち家

一回目（日曜の夕食頃），門のインターホーンごしに説明したが，途中で切られてしまった。何度説明しようとしても「お断わりします。」の一点張り。非常に非協力的な態度で，とりつくしまがなく，厄介なことにはかかわりたくないという感じでした。二回目（月曜の夕食頃）も　一回目と同様でした。

(c)　「八幡」における拒否の実情

「八幡」の拒否数は，５サンプルと少なく，そのうち４サンプルを実例として掲げる。

〔事例・１〕　女　３９才　　主　婦　　市営アパート

食事のしたくや，子供の世話などで，めんどうくさいと言われたため，パートの仕事をかけもちしているようで，忙しそう。最初（月曜の夜）に訪問した時も後で訪問した時（火曜の夜）も非常に忙しそうでとりあってもらえなかった。

〔事例・２〕　女　３０才　　職業不明　　市営アパート

一回目（土曜の午後）の時は，サンプルはのり気だったが，サンプルの夫が陰の方から，「どういう内容か？」「うちは関係ない」とか「他をあたってくれ」とか言って，夫が口ぞえをして受けあってくれなかった。二回目（日曜の昼食頃）の時は，サンプルが「もうすぐ仕事があるからだめ。またね！」「もういいですよ！」と，全然とりあわないというか，あまり人を信用していないそぶりで，迷惑気に断わった。

〔事例・3〕 男　53才　　職業不明　　借間（民間アパート）　月曜の夕食頃

はじめからいやな様子で，質問を重ねるごとに，「まだあるのか？」という様子で，問13の説明をしていたところ，「もういいだろう」と言って断わられた。「後日，また来る」と言うと「もういい，来るな」と断わられた。サンプルは，酒を飲んでいたようで，住いもあまり感じよくなかった。

〔事例・4〕 男　33才　　公営アパート　　職業不明

一回目の時（土曜の夕食頃）は，サンプルの妻が応対したが，最初から「なんでしょうね」と強い口調で言われた。二回目の時（日曜の昼食頃）サンプルと会う。「どうして選ばれたのか？」「なぜこういうことをするのか？」「みんなやっているのか？」と言った後，こちらの説明をしている最中にいきなり「いい」と言ってドアを閉めた。威圧的でドアごしに私をじっとにらむので恐かった。声もドスが効いていた。もうこういう人たちに対しては，統計調査を行うことは無理な気がする。こういったサンプルの態度は，実際に調査した人しか知らないだろう。サンプルの住居は，10階建団地の8階にある。もちろん庭などない。団地のような所では心の豊かさなどもてない。心の豊かさがあってはじめて，統計調査のようなものに協力できるのではと思われる。国は庭つき住宅を積極的に供給すべきである。

(d)　「熊本（矢部）」における拒否の実情

「熊本」の拒否数は12サンプルであった。そのうち，5サンプルを実例としてサンプル番号順に掲げる。

〔事例・1〕 女　43才　　主　婦　　持ち家　　土曜の午後

調査員が調査の依頼をしている最中に，「そういうことは結構です」と言って，ほそ目に開けていた戸を閉めてしまった。本人が拒否理由を言わないので，正確なところはわからないが，とにかく自分のことにかかわらなければ協力しないように思われる。

〔事例・2〕 女　68才　　自営の商工業　　持ち家　　土曜の午後

とにかく迷惑そうな様子。くどく調査の依頼をしても，クジ引きのような仕方で選んだとか，個人の名前などは絶対に公表しないと言っても，はなから相手にしていない。全く無視しようとする様子。結局，まだ調査員が依頼をくり返しているにもかかわらず，奥にひっこんでしまった。最初から，このようなことに協力しようという気持が感じられない。自分にかかわりのないことには，見て見ぬふりをするのではと懸念される人柄。

〔事例・3〕 女　55才　　農業　　持ち家　　土曜の午前

「名前を調べてきたのが気にいらん！」と言われました。「選挙人名簿からクジのような方法で抜きだしてきた。」とだいぶ説明したのですが，納得してくれませんでした。拒否の理

由として調査票の問１３から選べば，「個人の秘密を知られたくない」というのが適当だと思います。

〔事例・４〕　男　５８才　　職業と家屋形態不明　　土曜の午後

調査員を馬鹿にした言い方をする。こちらの説得に耳をかそうともしない。拒否理由としては，めんどうくさいからと思われる。

〔事例・５〕　男　３７才　　職業と家屋形態不明　　土曜の午後

訪問した時，玄関わきの部屋でテレビを見ていたようで，なかなか出てきてくれなかった。サンプルは不在。聞いた相手は，その妻で，少々感情的な傾向がある。サンプルの帰宅時間を聞いても「夜は遅い」と言われ，「明日来てもいいですか？」と聞いても，「明日は早朝出かけるし。夜も遅い。」と言われ，そして「今は忙しい」と言われた。

(e)　「鹿児島（知覧）」における拒否の実情

「鹿児島」の拒否数は，３３サンプルであった。拒否理由については，本報告書山田論文で触れられているように，農作業の疲れと閉鎖的な土地柄による拒否が過半数を越えている。そこで，ここでは，上記の理由による拒否の代表的な例を一例あげ，他の理由によるもの４例を掲げる。

〔事例・１〕　男　４１才　　農業　　持ち家　　月曜の夜

同族集団のためか（この地点では，30サンプル中，25サンプルが同姓である。）方言の違いもあって一面識もない者には非常な異和感をもたれたため，また昼間の農作業の疲れからとにかくめんどうがられた。公民館長のような部落の有力者の口ききがあれば調査拒否の数が減るのではと思われた。

〔事例・２〕　女　２２才　　作業系の勤め人　　持ち家　　火曜の夕食頃

調査に協力してくれるよう頼んでも，「調査に応ずる義務はない。質問内容がどうであれ答えられない。」と，最初に拒否理由をきっぱり述べて，全然受けつけてくれなかった。直接自分の利益にならない，めんどうなことを嫌がる若者の傾向か？

〔事例・３〕　女　６５才　　農業　　持ち家　　日曜の午前

「年だからそういうのは，もっと若い人に聞いて下さい」と，何度も説得したけれどだめだった。

〔事例・４〕　女　４４才　　職業と家屋形態は不明　　平日の夜

「この前も来たじゃないね。私はだまされませんよ」と強く拒否された。

〔事例・５〕　男　５６才　　自営の商工業　　持ち家　　土曜の夕食頃

調査対象者の妻と思われる人から，変な目で見られ，忙しいことを口実に断わられ，玄関

をピシャリと閉められた。

(f) 「長崎(富江)」における拒否の実情

「長崎」での拒否数は，11サンプルであった。ここでは，そのうち6サンプルを実例として掲げる。

〔事例・1〕 男 32才 学校の用務員 持ち家

最初調査に行った時(金曜の午後)は，サンプルが留守だったので，サンプルの奥さんに調査の主旨を話し，再度(土曜の)夕方7時すぎに伺がった。その時，本人は玄関に応対にも出ず，ふすま越しに「(5日間くらい)考える時間が欲しい。」と言われたので，留置きを申し込んだところ拒絶された。富江の調査日程は4日間なので，これでは調査は時間的に不可能。また話しの様子では，この調査に協力すること自体を非常に恐れていたように思われる。

〔事例・2〕 女 39才 農業 持ち家 金曜の午前

このサンプルの場合は，サンプルの夫がでてきて，「調査なんかにまともに答える人はいない。みんなウソをついているんだ。女房(サンプル)には，そんな才覚がないから答えさせるわけにはいかない。」と一方的に言われた。そこで，この調査の内容等を説明し協力してくれるよう極力交渉したが，とりあってもらえなかった。特にこのサンプルの場合，数年間福岡に住んだ後，1・2年前，現住所にもどってきているという事情があって，まわりの人達に対して違和感というか，不信感を抱いているということが話しの端々から感じられた。

〔事例・3〕 男 67才 船大工 持ち家 金曜の午前

訪問した時，サンプルが在宅していたので，調査協力を頼んだところ，「ワシは，船大工だが，いま全く仕事がなくブラブラしている。しかし政府は何もやってくれん。ワシらが，何を言おうと相手にせんのに，そんなものしたって無駄だろうが。」と言って，「お願い」の紙を渡しても，見向きもしなかった。そこで，調査について40分程度説明し，相手に理解してもらうよう努めたが，結局どんな調査に対しても拒否しているので協力したくないと言われた。この間の話題は，調査の説明のほかに，造船不況や富江町における漁船建造の減少などについてであった。サンプルが述べた非協力の理由ももっともであると(調査員には)思えた。

〔事例・4〕 男 26才 農業 土曜の午前 持ち家

サンプルの家は，農家のようで，私が庭先に入っていくと，作業衣姿の父親らしい人が，ちょうど縄をなっていた。サンプルに面会を申し出ると快く承諾してくれた。彼の顔は，全く精気に欠けているように見え，動作はのろく，目はうつろで病人のようであった。訪問理

由を告げると「そうですか？　早く終わりますか？　早く終わるのならいいですよ。」と，ゆっくりした調子でボソボソと答えた。その間彼の表情は，奇妙な訪問をうけた時に人々のする何かを期待するような表情も，警戒するような表情も見せなかった。そして質問の半ばに，突然「やあ，もう疲れました。終わりにしましょう。」と言って，有無を言わさず，ゆっくりと暗い家の中に入って行き，もう出てくる様子がなかった。

〔事例・５〕　男　２５才　　水産業　　持ち家

金曜の午前中に訪問した。サンプルは不在で，サンプルの母から「昼に帰ってくる」と言われたので，一時頃再び訪問した。しかしサンプルは，「今から仕事に行く」と言って調査を拒否したので，「夜訪問してよいか？」と聞くと「夜も忙しいのでそのような調査はできない」と言われた。

〔事例・６〕　男　６３才　　農業　　持ち家

金曜の午前に訪問すると「農作業で忙しいから午後に来てくれ。」と言われ，再び午後に訪問。その時は「ばあちゃんが病気で，今容体が悪くなったと電話があり，今から見舞いに行くので調査に答えられない。」と言って拒否された。

（九州大学）